

今日はシンプルな CASE について学びます。

CASE を受け取った後、具体的にどのようにしてたった一つのレメディにたどり着けば良いのか？について考えて行きましょう。

CASE 学習は、「オルガノン § 3」を実践して行くことです。

まずは CASE を理解する

CASE 学習ではレメディを当てることだけが重要ではありません。

クライアントさんの何が癒されるべきか？（病は何か）を理解することが大切です。ホメオパスの役割は、その人を「偏見から離れて、ありのまま受けとめる」ことです。ホメオパシーの目的は、この 1 点だけと言っても良いでしょう。それさえ出来ればその人に必要とされるレメディは、おのずから明らかになります。

ご存知のように CASE 学習での授業の順序は、以下のように進めます。

1. まず、CASE を一読して、ケースの①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。

4. これらを元に、「前分析」を試みる。

②健康度（0～10）

③予後（良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？

④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、そこから始める）

⑤治癒を妨げているものは？

⑥親和性（部位）

⑦マヤズム傾向（Psora Sycosis Syphilis Cancer TB）

⑧全体性（レメディはいくつ必要になるか？）

⑨バイタリティー

5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の核心）をとらえる。

6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、Rep.する。

7. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。

8. 最終的には、ポーションとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、CASE 学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。

では、始めましょう。